

都立一橋高等学校

【校長】 樋口 博文 【生徒数】 720名 【学級数】 13学級



【実態・目標】

- 自己を大切にする気持ちや、自己の健康に関する意識が低い。
- ⇒ 自己を大切にする気持ちを育み、健康を保持増進するための知識を得る。
- 小中学校で不登校経験の生徒が多く、性に関する知識の差が大きい。
- ⇒ 自己の健康のためだけでなく、性を通じて人権を学ぶ。

目標

生徒の生涯にわたって健康に過ごすために、自己の健康への意識を高め、適切な意思決定・行動選択が取れるようにする。

【課題・改善】

- 生涯にわたって生徒が自己の健康について考え、意識を向上することはできた。しかし、保健の授業に関しては通信制では年間1度の授業しか生徒は受けておらず、資質・能力を高めることは難しい。
- ➡【今後の取組】
- 今後は教科等横断的に学校全体で健康教育の充実を図っていく。
- また、今後も継続的に産婦人科医等の外部機関と連携を図っていく。

【取組】

- 保健の授業における主体的な学び
⇒ 生徒が主体的に自己の生涯の健康について考えるきっかけをつくることのできる教材を提供する。
- 教員の指導力を向上のため、第46回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会に参加
⇒ 教員の指導力向上
- 産婦人科医を招へいした授業の実施
⇒ 性教育を通じて人権を学ぶ。

【成果】

- 生徒の意識に関する成果
多くの生徒が専門家の話に興味・関心を持ち、積極的に取り組んでいた。また、アンケートでは95%以上の生徒が「役に立った」「分かりやすかった」と回答した。
- 生徒の態度に関する成果
自分自身の心身の健康だけでなく、パートナーや仲間の心身を思いやる重要性を、改めて認識した。
- その他（教員の授業改善など）
生徒のためにも、積極的に外部人材と連携した授業の機会を作る必要性を感じた。

【取組（詳細）】

○保健の授業における主体的な学び

保健の授業では、「自分はどうありたいか」という視点を大切にしている。また、身近な健康課題に向き合うために、自己の生活や環境の振り返りをしっかり行う。その中で、自分の理想に近づくために改善点を考え、解決策を考えていく。またデジタルを活用して、リアルタイムで他者の課題や考えを共有している。その結果、生徒が自己の考えを深め、主体的に学ぶことができた。



保健の授業風景

○教員の指導力を向上のため、第46回日本産婦人科医会「性教育指導セミナー全国大会」に参加

- 第46回日本産婦人科医会 性教育指導セミナーへ参加
奈良県開催（7月28日）
＜テーマ＞
「どうするネット社会の性教育 ～SNSの功罪を考える～」
 - ・思春期世代が求める性教育とは
 - ・中学生のSNS利用状況調査と性教育
 - ・SNSに翻弄される思春期の心と性行動

○産婦人科医を招へいした公開授業の実施

- ＜授業内容＞
 - ・性交同意年齢について
 - ・性同意について
 - ・避妊について 等
- ＜生徒の様子＞
専門家による話は初めて聞く生徒が多く、真剣に聞いていた。また、質疑応答時では、普段は聞けないようなことを積極的に質問していた。
- ＜外部人材を活用した授業について＞
知識と経験が豊富な外部人材の話を、生徒に直接聞くことができる機会は、生徒の反応を見ても貴重な経験になることが伺えた。



公開授業の様子